松坂屋 史料室 企画展 Vol.3

デパートメントストア100年

明治・大正・昭和の催し物

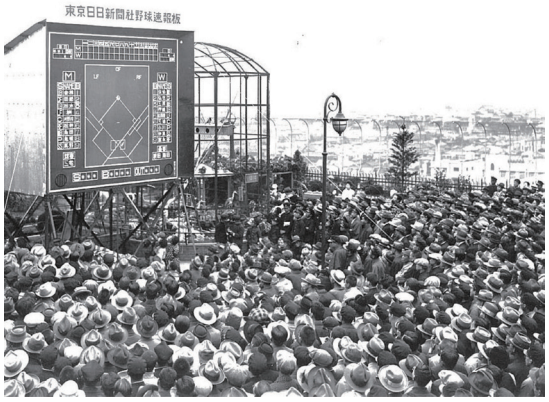
平成22年11月3日（水・祝）→12月26日（日）

呉服店の大売出しは、江戸から明治、大正初期にかけては、正月の「新年初売出し」、10月の「えびす講売出し」ぐらいのものであったが、こうしたなか松坂屋では、明治中期から6月に「夏物大売出し」を実施、さらに1905（明治38）年8月には業界初のファッションショーを開催するなど、時代を先取りした施策を次々と打ち出していった。

百貨店に転換した1910（明治43）年以降は、最上階に設けた催事場やホールを中心に、商品催事（売出し、物産展など）、文化催事（美術展、いけばな展など）などを週替りで展開し、集客のみならず、店舗そのものの魅力も高めていった。

「生きた動物大バーゲン」（銀座店、昭和41年）

1966（昭和41）年、銀座店はゴールデンウィークに「生きた動物大バーゲン」を企画。大は120万円のインド象から小は10円のサワガニにいたるまで約300種、総勢1万匹が勢ぞろいした。マスコミも大々的に報道するなど話題を集め、連日大勢で賑わった。



全手動式野球速報板（上野店、昭和6年）

1931（昭和6）年5月10日、完成した神宮球場の東京六大学春のリーグ戦に7万人の観客が詰めかけた。この日、松坂屋では、上野店の屋上にラジオの実況中継に合わせて、ボールや走者の動きを再現する全手動式の野球速報板を設置し、直接球場に行けない大勢のファンを楽しませた（写真は早明戦）。

名古屋城の模型
（名古屋店、昭和24年～）

1949（昭和24）年10月、改装を終えた6階で「名古屋市制60周年記念展」、5階で「名古屋城障壁画展」を開催。そして屋上では、空襲で焼失した名古屋城の模型を制作し、展示した。

「創業340年記念」
新聞広告（昭和26年）

経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言したのは1956（昭和31）年であるが、それよりも5年前にカラーの新聞広告を掲載し、「記念大売出し」をアピールした。

「横井庄一さんグアム生活展」
（名古屋店、昭和47年）

グアム島のジャングルの中で28年間、孤独と戦い抜いた横井庄一さんの生活道具の展覧会は、ピーク時には400mの行列ができ、待ち時間は最高1時間を記録した。開催にあたっては、松坂屋、丸栄、名鉄、オリエンタル中村の4百貨店で抽選を行い、松坂屋が引き当てたというエピソードが伝わっている。

「創業340年記念」
ファッションショー
（名古屋店、昭和26年）

1951（昭和26）年10月に名古屋店ホールで開催のファッションショーのモデルは、東京のアーニー・パイル劇場（東京宝塚劇場）の踊子たち。華やかなスポットをあびて、カクテルドレスや、最新のモードが登場した。

Matsuzakaya 松坂屋・名古屋
〒460-8430 名古屋市中区栄3-16-1
TEL:052-251-1111
www.matsuzakaya.co.jp/nagoya/